

件名	第22回 蒲田都市づくり推進会議	
日時	令和7年10月22日（水）15:30～17:00	場所：新蒲田区民活動施設（カムカム新蒲田）多目的室（大）
出席者	23名中17名出席（欠席6名、大田区代理出席2名）別途資料参考	
配布資料	第22回蒲田都市づくり推進会議資料	

- ・新たな委員の紹介と、本日の欠席者の紹介
- ・大田区 鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備 首藤担当課長より速達性向上計画認定の説明
- ・大田区 鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備 吉野担当課長より改定再編PJの説明

（主な意見・蒲田駅周辺再編PJの改定について）

◆意見交換

藏方委員）

西口駅前広場は狭いが、自動車の動線・空間をどのように確保するのか。

⇒西口駅前広場は道路基盤が弱く、人と車の交錯が多く発生していることは理解している。25頁に示す通り自動車ネットワーク軸を新たに設定しており、詳細はこれから検討になるが、道路基盤を考えながらまちづくりを進めていく。（区）

田中（常）委員）

歩行者ネットワークについて、駅を回遊するデッキレベルは2階となっているが、現状のJR/東急の改札は3階レベルにある。将来のデッキレベルの高さはどうなるのか。

⇒デッキレベルは、現在のJR/東急改札のレベルを想定している。（区）

田中（彰）委員）

10, 20年後には、バス・タクシーなど公共交通への考え方、自家用車を駅前広場に通す是非など、モビリティに対する考え方にも変化が想定される。早い段階で駅前広場の素案を地元に示して頂きながら、将来の検討を進めて頂きたい。

⇒34頁に示すように初動期のデザインプランを前提に中期の絵を描いている。長期的には、自動運転などモビリティの技術革新の動向等も踏まえて検討が必要と考えている。地域の方と話をしながら調整していく。（区）

⇒モビリティの変化に後から対応するのではなく、準備をしておく事が大事。時代の変化に合わせて空間をシェア出来るとよい。時代に合わせて空間をシェアする概念を持ちながら、地元の方々と協議しながら調整頂きたい。（大沢先生）

藤田委員）

ウォーカブルなまちづくりや、ほこみち制度について、具体的にイメージできるよう説明いただきたい。

⇒ほこみち制度によって、道路空間でイベントなどを行うなど、現在のさかさ川通りのようなイメージである。（区）

⇒滞留空間を創出して、そこで滞在をしてお金を落としもらう。目的地に早く行くのではなく、ウォーカブルにして、滞在して時間を過ごしてもらうことに価値を見出すという事だと思う。道路の視点に留まらず、民地側（店舗側）にどんなメリットがあるのか地元にはお示しできるとよい。（大沢先生）

田中（常）委員）

さかさ川通りは国家戦略特区（R8年度末期限）からほこみち制度に移管すると聞いている。さかさ川通りのみが、ほこみち制度の対象なのか、或いは、もっと広い空間でほこみち制度をやるのか、どうやって広げていくのか。具体にやっていくための相談相手はどこになるのか。

⇒蒲田のまちづくりの窓口は、鉄道・都市づくり部になる。（区）

森田委員）

自転車ネットワークについて、東西にある広場デッキは、自転車は通れるのか。また、屋根はあるのか。

⇒広場デッキは自転車の通行はできない想定。自転車での駅東西の行き来は、北側連絡通路での押し歩きで利用することを考えている。駐輪場の数については、まちづくりの動向に合わせて必要台数を考えて行く。（区）

⇒西口の駐輪場についても更新があるということ。（森田委員）

⇒西口の駐輪場についても駅ビルの機能更新やまちづくりのなかで検討をしていく。北側連絡通路について

は、屋根を設置することを考えており、鉄道事業者と協議を進める。広場デッキは、駅ビルが張り出すため、建物自体がデッキに張り出して屋根になる想定。(区)

田中（常）委員)

駐輪場は駅東西それぞれで分けて利用するのではなく、北側連絡通路で繋げばよいのではないか。区切る必要があるのか。

⇒需要を見ながら、東西それぞれで整備をしていく。東西を行き来するために北側連絡通路は使って頂く。

西側については今後のまちづくりの動向を見ながら駐輪場の整備をしていきたい。(区)

⇒西側については、道路を使って駐輪場にしている箇所がある。それをちゃんと整備するということか。(田中委員)

⇒今後のまちづくりの動向を見ながら駐輪場の整備をする。(区)

⇒東西で分けて考えるのではなく、まち全体で柔軟性をもって検討頂きたい。(田中委員)

宮澤委員)

東口の工事で駅ビルに向かう荷捌き車両の道路が、障がい者や高齢者には歩きにくくなっている。車いすは通れない。なので、区役所に行きづらい。少しきれいに平場に整備してから工事をして頂けないか。工事の間ずっとこのままなのか。

⇒本日頂いたご意見を担当課に相談させていただく。将来は駅ビルの機能更新に合わせて、別の位置からの荷捌きを事業者と検討している。(区)

⇒誰も見ている人がいないので、指示する人や監視する人がいるとよい。(宮澤委員)

区議 高山委員)

・蒲田に人が集まるまちになることを期待する。13頁右下の新空港線の位置関係の図は、池上線と京浜東北線が同レベルの絵になっている。本来は、池上線が2階で京浜東北線は地上レベルである。乗換えについては、ウォーカブルとは別に、各鉄道へのアクセスや、駅前広場（まち）へのアクセスが円滑になることも合わせて検討頂ければと思う。

⇒32頁に示す通り、JR/東急の改札階レベルで、デッキを整備し、歩行者の回遊性を確保する事が基本的な考え方になる。合わせて、災害時の防災機能の観点からデッキレベルの高台避難としている。乗換えイメージは駅施設の中に縦動線を計画しており、まちへの動線は地上での接続を検討している。引き続き鉄道事業者と検討していく。(区)

⇒現状の考え方として理解したが、全ての人が東西自由通路を通る必要はないので、乗換え動線については、買い物（回遊）、通勤（速達性）など多様なニーズに合わせて検討頂ければと思う。(高山委員)

田中（常）委員)

東口駅前広場のロータリーについて、今後の交通計画や全体計画に合わせて柔軟に対応頂きたい。

⇒引き続き検討を行っていく。(区)

藏方委員)

新空港線を含めた動線、東急プラザ、グランデュオ、JRの計画の全てが蒲田駅前プロジェクトなので、臨機応変に検討頂き、より良い方向に向かって頂ければと思う。

副座長 大森先生)

東口駅前広場について、東西自由通路から降りてきた空間が狭いように感じている。もう少し空間が取れないか。交通島に憩いを生むみどりの創出とあるが、ここで人が憩うのか。交通島を減らしても、空間を作れないか、検討頂きたい。

新空港線の京急蒲田駅での接続について、地下と高架で高低差が20m近くある。高低差をどうするのか、地上部の接続をどうするのか、今後の検討が必要である。

⇒東西自由通路を降りた空間については、現在の駅ビル荷捌き車両が入る道路部分も歩行者空間として確保したいと考えている。(区)

⇒京急蒲田との接続については、これから具体的な検討を始めるところである。おっしゃる通り高低差を含めた連絡通路を検討していく。(区)

座長 大沢先生)

京急蒲田駅との乗換えについては、地下のデザインをしっかりと検討する必要がある。地下の滞留空間を上手にいかしながら検討をお願いしたい。

東西自由通路については、駅ビル側とも調整頂きながら引き続き検討をお願いしたい。

【今後の予定】

- ・パブリックコメントの実施（11月11日から3週間）
- ・説明会の開催（11月15日土曜日、11月17日月曜日）

以上



令和7年度 蒲田都市づくり推進会議 構成員名簿

(敬称略)

役職	区分	氏名	所属・役職等
座長	学識 経験者	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授
副座長		大森 文彦	東京科学大学 環境・社会理工学院 准教授
委員	地元 関係者	小山 君子	蒲田東地区自治会連合会 会長 ※1
		藏方 康光	蒲田西地区自治会連合会 会長
		田中 彰一	蒲田東口地区まちづくり協議会 会長
		藤田 義行	蒲田東口商店街商業協同組合 理事長
		森田 充浩	蒲田西口商店街振興組合 理事長
		望月 康史	蒲田大好き委員会 会長 ※1
		田中 常雅	蒲田再開発推進委員会 委員長
		宮澤 勇	特定非営利活動法人 大身連 理事長
	区議会 議員	高山 雄一	まちづくり環境委員会 委員長
		椿 しんいち	まちづくり環境委員会 副委員長 ※1
	東京都	荒井 大介	都市整備局都市基盤部 交通企画課長 ※1
		桂 健太郎	都市整備局都市基盤部 街路計画課長 ※1
	大田区	池田 中	鉄道・都市づくり部 鉄道・都市づくり部長
		谷田川 泰	鉄道・都市づくり部 鉄道・都市づくり課長
		吉野 崇	鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備担当課長
		首藤 拓郎	鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長
		梅崎 修二	企画経営部 企画経営部長 ※1
		杉山 良樹	まちづくり推進部 まちづくり推進部長 ※2
		深川 正浩	まちづくり推進部 都市計画課長
		中村 誠	都市基盤整備部 都市基盤管理課長 ※2
		厚川 令子	都市基盤整備部 都市基盤計画調整担当課長

※1 欠席者

※2 代理出席